



青森県立高等学校将来構想について (答申)に関する地区懇談会

～青森県の未来を担う子どもたちが
夢や志の実現に向けて成長できる高等学校教育のために～

地区懇談会の日程

- 【上北地区】2月 8日(月)18:30~20:00(十和田市東公民館 ホール)
- 【下北地区】2月10日(水)18:30~20:00(むつ来さまい館 イベントホールB)
- 【中南地区】2月12日(金)18:30~20:00(県武道館 会議室)
- 【三八地区】2月15日(月)18:30~20:00(八戸市総合福祉会館 多目的ホール)
- 【西北地区】2月17日(水)18:30~20:00(五所川原中央公民館 大ホール)
- 【東青地区】2月19日(金)18:30~20:00(県総合社会教育センター 大研修室)

本日の説明内容

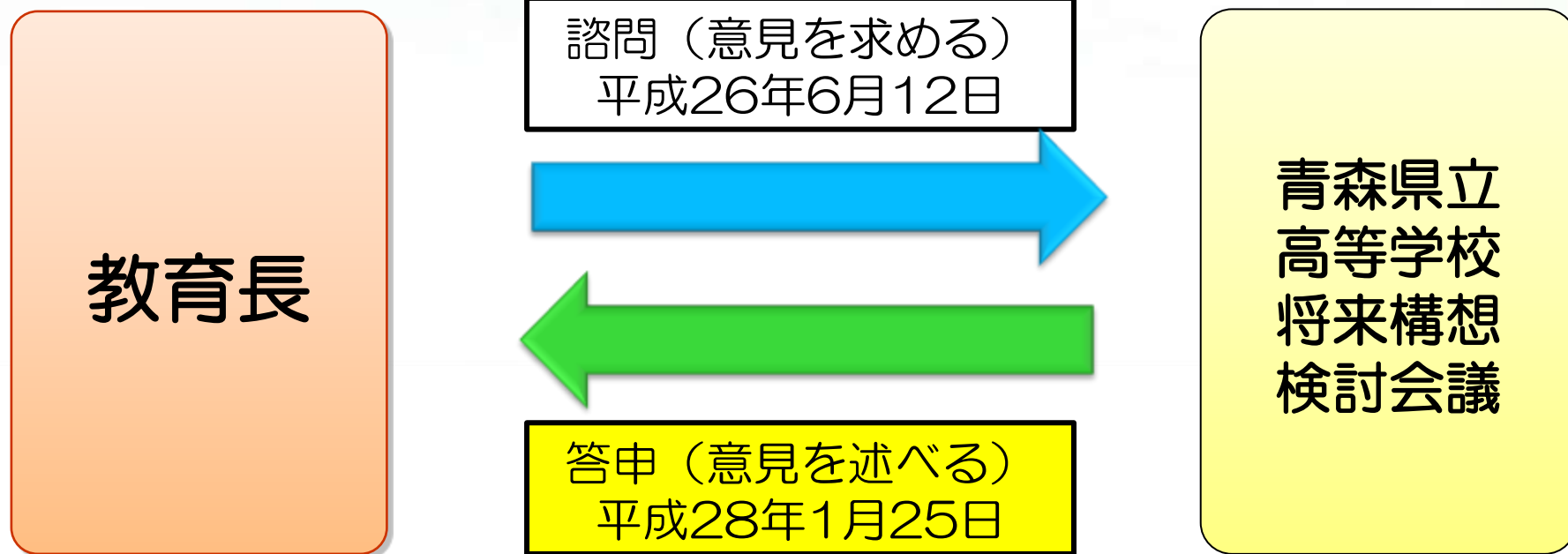
- 1 はじめに
- 2 青森県立高等学校将来構想検討会議 答申(概要)
 - (1) 検討の背景
 - (2) これからの本県高校教育に求めること
 - (3) これからの高校の在り方
 - (4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性
 - (5) 魅力ある高等学校づくりに向けて



1 はじめに

懇談会の目的

- ・ 答申の内容をお知らせすること
- ・ 答申に対して御意見を伺うこと



答申とは？

平成30年度からの新たな計画策定に向けた
有識者会議からの提言

教育長は何を諮問したのか？

県立高等学校教育改革第3次実施計画

【前期】
(H21~H25)

【後期】
(H26~H29)

次期計画
(H30~)

諮問事項

平成30年度以降の県立高等学校の将来構想

- 1 学校・学科の在り方
- 2 高等学校の規模・配置
- 3 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性

青森県立高等学校将来構想検討会議とは

青森県立高等学校将来構想検討会議

■委員構成（25人）

大学関係者、産業界関係者、PTA関係者、報道関係者、市町村教育委員会関係者、中学校関係者、高校関係者等

第1分科会（11人）

■検討内容：

1 学校・学科の在り方について

第2分科会（12人）

■検討内容：

2 高等学校の規模・配置について

地区部会

東青

西北

中南

上北

下北

三八

■検討内容

3 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性について

■委員構成（9人×6地区）

市町村教育委員会関係者、地域関係者、PTA関係者、中学校関係者、高校関係者等

約1年半にわたり延べ43回の会議を開催

答申を受けてどう進めるのか？

青森県立高等学校将来構想検討会議（答申）
（有識者会議からの提言）

地区懇談会での御意見

メール、郵送、FAX
での御意見 等

平成30年度からの新たな計画策定
（県教育委員会）

子どもたちの夢や志の実現に向けた
新たな計画のスタート（平成30年度～）

2 青森県立高等学校将来構想検討会議 答申(概要)



生徒の多様化への対応

- 生徒の多様なニーズに対する特色ある学校づくりの推進
(例) 中高一貫教育の導入、学科の再編整備

生徒数減少への対応

- 生徒数が減少する中であっても、生徒が集団の中で様々な個性や価値観に触れ、切磋琢磨できる教育環境の整備
(例) 一定規模以上の学校の配置
- 高校に通学することが困難な地域が生じることのないよう柔軟な学校配置に配慮



グローバル化・情報化等による社会の急速な変化

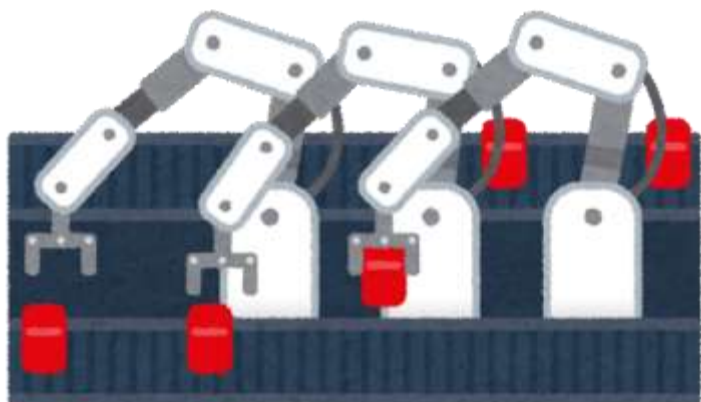
<米国での研究事例>

◎2011年に米国の小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く

(キャシー・デビッドソンの予測)

◎今後10~20年程度で、米国の47%の仕事が自動化される可能性が高い

(オズボーンの予測)

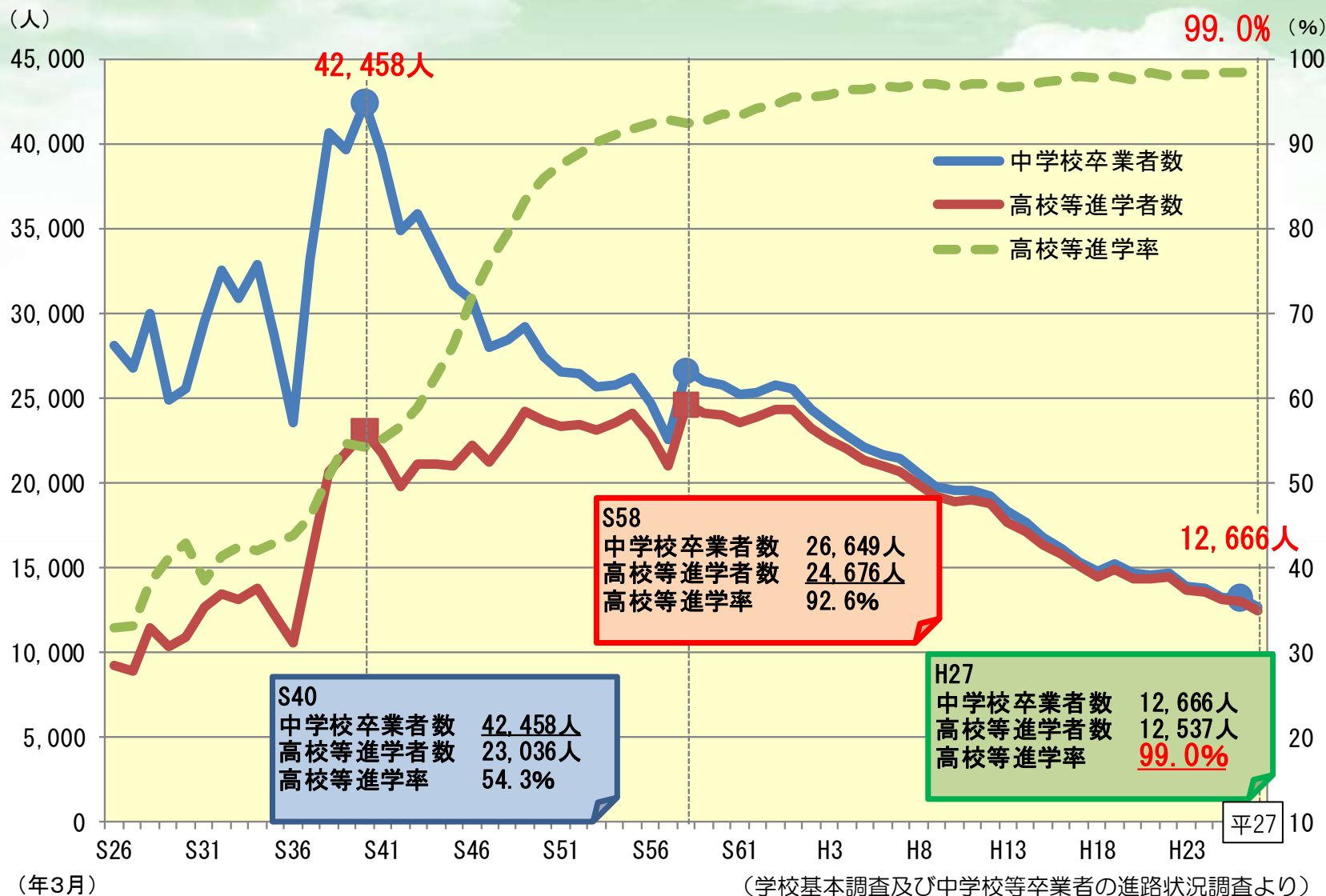


日本においても
無縁ではない

(1) 検討の背景 — 生徒の多様化

(答申P2)

【中学校卒業生数と高校等進学率の推移】

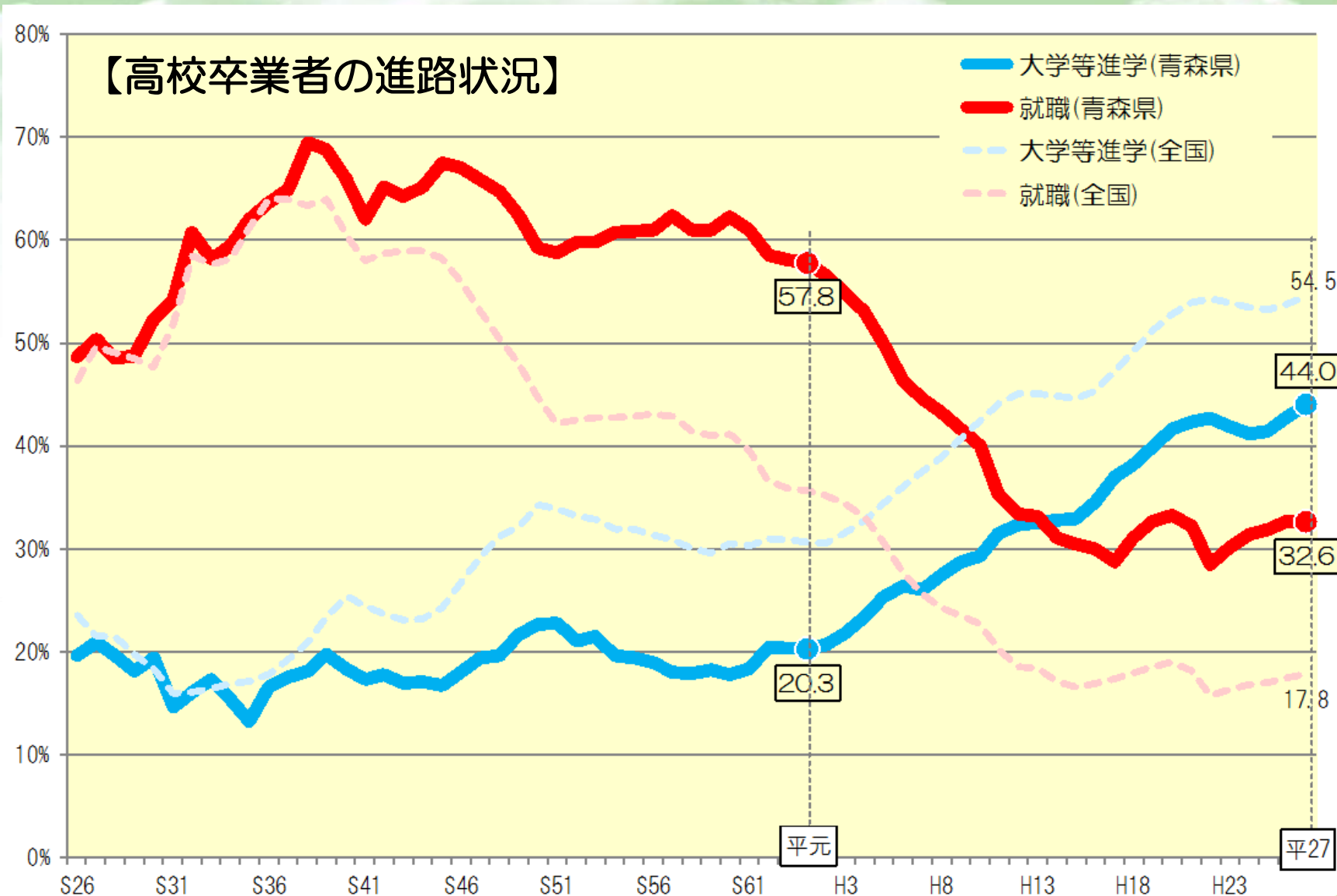


高校等進学率は99.0%となり、中学校卒業生のほとんどが高校へ進学



(1) 検討の背景 — 生徒の多様化

(答申P2)



(学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より)

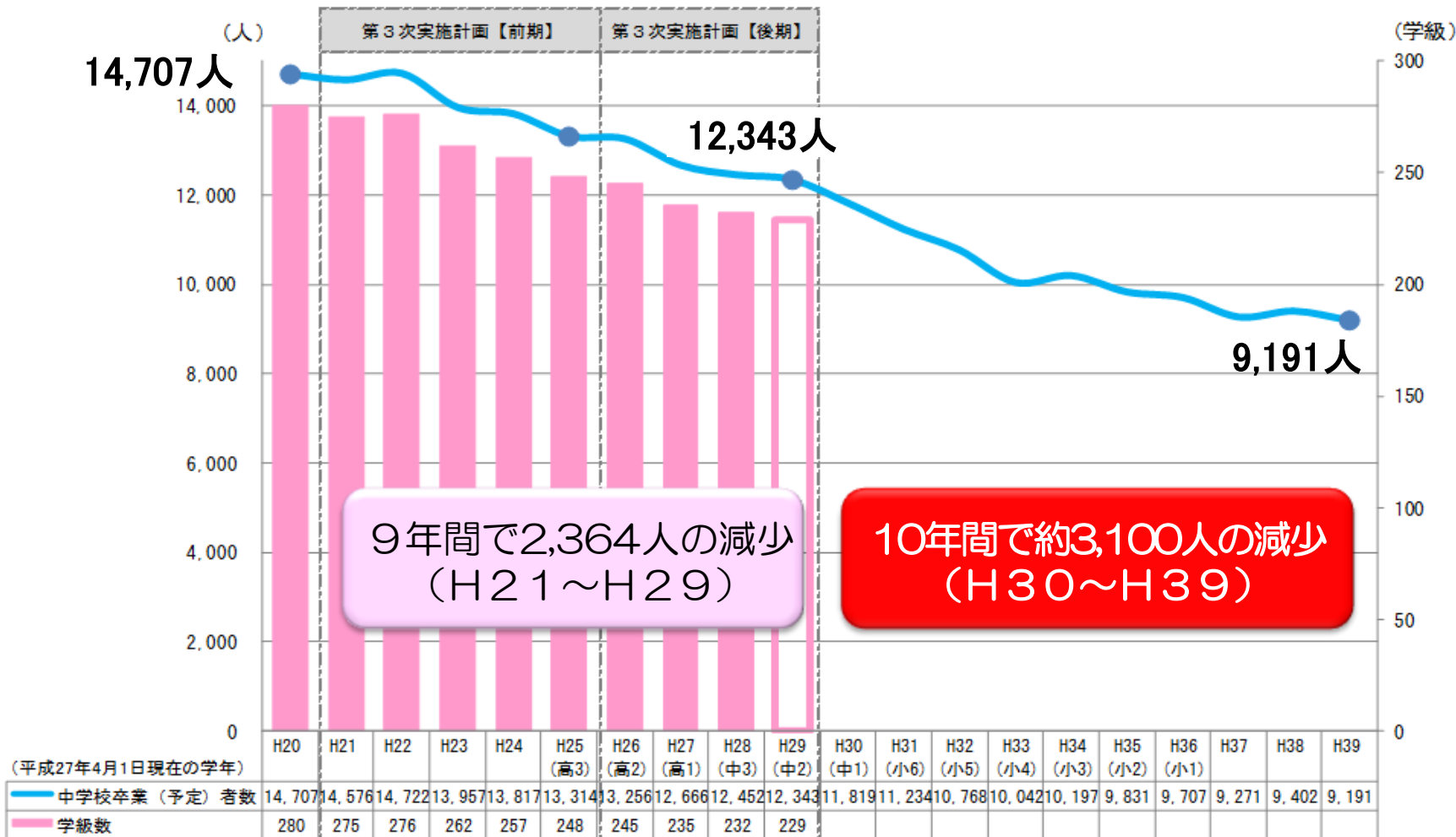
平成13年に大学等進学と就職が逆転し、平成27年には大学等進学が44.0%

(1) 検討の背景 — 生徒数の減少

(答申P2)

〔中学校卒業（予定）者数と学級数の推移〕

※中学校卒業（予定）者数は、各年3月。
平成28年度以降は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



9年間で2,364人の減少
(H21~H29)

10年間で約3,100人の減少
(H30~H39)

	H25までの増減（対H20）					H29までの増減（対H25）					H39までの増減（対H29）				
中学校卒業（予定）者数	△1,393人					△971人					△3,152人				
学 級 数	△32c1					△19c1									

①これからの時代に求められる力

国の主な制度改革

高大接続改革

(高校教育、大学教育、
大学入学者選抜の一体的改革)

公職選挙法等の改正

(選挙権年齢満18歳以上に引き下げ)



2030年における青森県のめざす姿

<青森県教育振興基本計画>
(平成26～30年度)

○夢や志の実現に向かって挑戦する青森県民
○人が育ち、磨かれ、活躍する青森県

等



①これからの時代に求められる力

生きる力

確かな学力

- 基礎的・基本的な知識・技能
- 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- 主体的・協働的に学習に取り組む意欲

豊かな心

- 公共心、倫理観、他者への思いやり、自己肯定感等

健やかな体

- 社会で自立して活動するために必要な健康や体力等



本県が重視する力

逞しい心

- 夢や志を持ち、より高い目標に向かって果敢にチャレンジする「逞しい心」

学校から社会への円滑な移行に必要な力

- 他者との信頼関係を築きながら課題を解決するために必要なコミュニケーション能力、責任感等

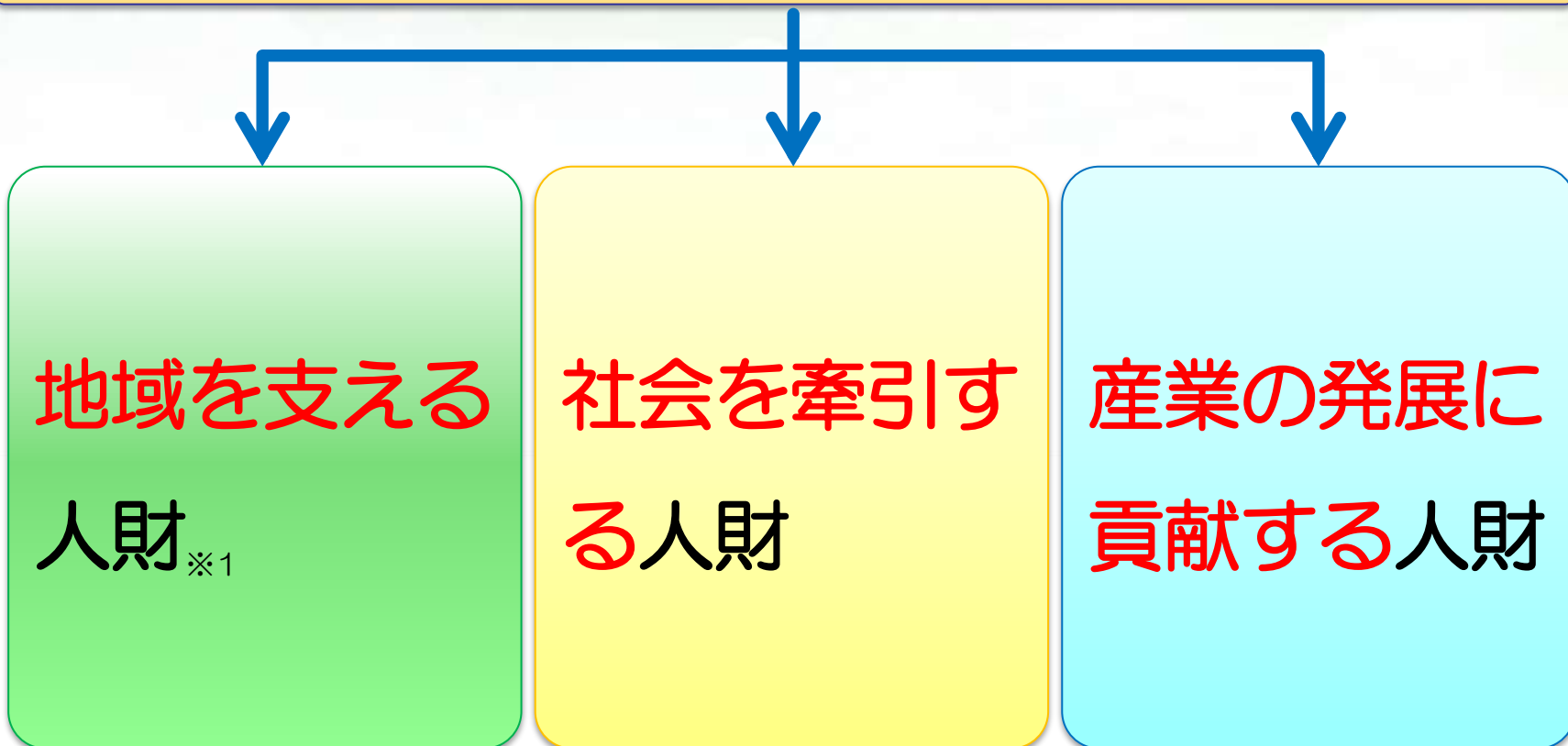
郷土に誇りを抱き、青森県の未来を力強く支えようとする心

- 国際的視野を持ちながら、本県の歴史・文化の価値、自然や産業の持つ魅力の理解を通して育む本県の未来を支えようとする心



②各学校の特色を生かして育成すべき人財

各学校における特色ある教育活動



※1 人財 … 「青森県基本計画未来を変える挑戦」（平成25年12月策定）等では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」ことを基本的な考え方とし、「人材」を「人財」と表記しており、本答申においても同様に表している。



③ 「オール青森」の視点による検討

グローバル化、多様化、少子化に伴う高校の小規模化等の課題を、**高校の在り方について根本から見つめ直すチャンス**ととらえ、一つの学校、一つの地域という視点だけではなく、学校と学校、学校と産業界、家庭、地域等が連携し、県全体が一丸となって高校教育を推進する

「オール青森」の視点を重視



[学校規模・配置の検討に当たっての2つの観点]

① 高校教育を受ける機会の確保

中学生それぞれの志に応じた高校や学科等を選択できる環境

② 充実した教育環境の整備

より特色ある教育活動の実践、本県高校教育の質の確保・向上



①高校教育を受ける機会の確保

各地区における中学生の進路の選択肢の確保

大学等への進学
や就職等より幅
広い進路選択に
対応する高校

選抜性の高い
大学への進学
に対応する
高校

職業教育の
中心となる
高校

(答申P19)

複数の学科を有し、幅広い学びの選択肢となり得る高校



①高校教育を受ける機会の確保

通学環境への配慮

- ◆地理的な要因から高校に通学することが困難な地域が新たに生じることのないよう配慮
- ◆通学が可能な範囲は、公共交通機関の利便性やスクールバスの運行状況等により変わり得る
- ◆市町村等との連携を含め、生徒の通学環境の充実について検討



(3) これからの高校の在り方

②充実した教育環境の整備 — 普通科等※2

普通科等の方向性

- グローバル・リーダーとして社会を牽引する人財や地域を支え、社会に貢献する人財等の育成
- 選抜性の高い大学への進学対応、高校卒業後の就職対応等、幅広い教育を提供する役割
- 普通科系の専門学科については、中学生や保護者のニーズを踏まえ、設置意義を改めて見直し、検討

※2 普通科等 … 普通科、理数科、英語科、外国語科、スポーツ科学科、表現科等の各学科

重点校

(答申P16)

- ◆各高校と連携しながら、選抜性の高い大学への進学に対応できる学校
- ◆グローバル教育や理数教育等の特定分野の学習における先進的な取組



②充実した教育環境の整備 — 普通科等

＜普通科等の重点校のイメージ＞

【重点校】

医学部医学科進学に対応
できる教科・科目の指導

先進的な理数教育により
生徒の創造性・独創性を
高める教育課程の編成

講習会・講演会・
擬似手術体験セミ
ナー等への参加

講演会・研究成果
発表会等への参加

指導法等に関する教員の
連絡会議への参加

公開授業・研究
協議会への参加

- ・ 医師、弁護士等の高度な国家資格の取得に向けた志の育成
- ・ 青森、日本、世界の将来を担うリーダーの育成 等

◎重点校においては、単位制や併設型中高一貫教育の導入についても検討。



(3) これからの高校の在り方

②充実した教育環境の整備 — 職業教育を主とする専門学科※3

職業教育を主とする専門学科の方向性

- 職業人として求められる基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力や高校卒業後も学び続ける態度を育成
- 大学等へ進学する生徒の増加への対応
- 各専門分野における幅広い学習内容を提供する学校の設置、各高校が連携する体制の整備

※3 職業教育を主とする専門学科 … 農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科等の各学科

拠点校

(答申P16)

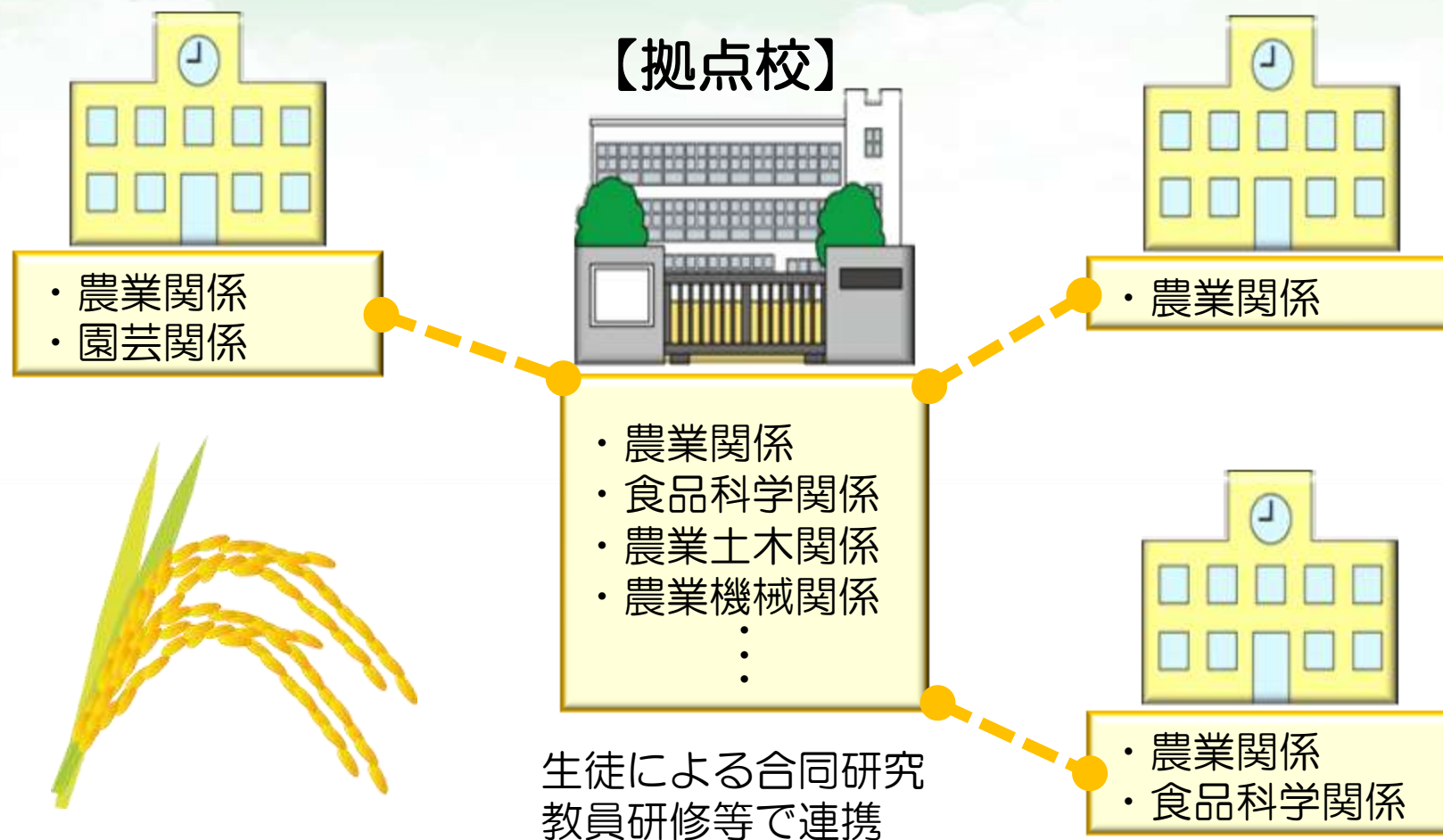
- ◆特定の学科における専門科目を幅広く学ぶことのできる学校
- ◆各学科における基礎的・基本的な知識・技能を習得
- ◆専門的な学習の深化



(3) これからの高校の在り方

②充実した教育環境の整備 ー 職業教育を主とする専門学科

<職業教育を主とする専門学科の拠点校（農業教育）のイメージ>



②充実した教育環境の整備 — 総合学科※4

総合学科の方向性

○ 大学進学志望者や就職志望者に対応できる教育課程を編成

1
年次

「産業社会と人間」※5

入学後の早い段階から自己の生き方や進路について多面的に考え、学習に取り組む意欲や態度を育成

2 3
年次 年次

「総合的な学習の時間」等

課題解決型学習への取組により、これからの時代に求められる力を育成

- ◆生徒のニーズを踏まえた系列※6の見直し
- ◆多様な選択科目の開設

主体的な学習のさらなる充実

※4 総合学科 … 幅広い選択科目の中から生徒の主体的な選択による学習を通して、将来の生き方や進路に関する自覚を深め、職業観を育成することを目指す学科

※5 産業社会と人間 … 産業社会における自己の在り方や生き方について考えさせるとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習などを行う学校設定科目。

※6 系列 … 生徒の科目選択の参考になるように関連する科目をまとめたもの（総合選択科目群）



②充実した教育環境の整備 — 学校規模

各学科におけるそれぞれの役割に応じた人財育成に向けて求められる教育環境の整備

(答申P17)

- 課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ
アクティブ・ラーニング等による教育実践
- より幅広い進路選択に対応できる教科・科目の開設
- 学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な
部活動の選択肢の確保



②充実した教育環境の整備 — 学校規模

(学校規模による開設科目数の違い)

地理歴史・公民の 開設科目 (普通科の学校)	世界史 A	世界史 B	日本史 A	日本史 B	地理 A	地理 B	現代社会	倫理	政治・ 経済
1学級規模	○		◇		◇		◎		
2～3学級規模	○		◇	○	◇	△	◎		◇
4～5学級規模	◎	○	◎	○	◎	◇	◎	◇	○
6～7学級規模	◎	○	◇	◎	◇	◎	◎	◇	○

理科の開設科目 (普通科の学校)	物理基礎	物理	化学基礎	化学	生物基礎	生物	地学基礎	地学	科学と 人間生活
1学級規模			◎	◇	◎				◎
2～3学級規模	○	◇	◎	○	◎	○			△
4～5学級規模	◎	○	◎	◎	◎	○			◎
6～7学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◇		

「◎」… 全校で開設、「○」… 3/4以上の学校で開設、「◇」… 1/2以上の学校で開設、「△」… 1/3以上の学校で開設

(平成26年度学校要覧を基に高等学校教育改革推進室において作成)



(3) これからの高校の在り方

②充実した教育環境の整備 — 学校規模

(学校規模による部活動設置数の違い)

	運動部																	平均設置部数		
	硬式野球	陸上競技	バスケットボール	バレーボール	テニス	ソフトテニス	ハンドボール	ソフトボール	バドミントン	卓球	サッカー	ラグビー	剣道	柔道	弓道	空手道	水泳		フェンシング	
1学級規模	◇		◇	◇					○											3.3部
2～3学級規模	◎	○	○	○	◇				◇	◇	△					◇				7.8部
4～5学級規模	◎	◎	◎	◎	◇	○		◇	○	○	◎		○	○					◇	12.0部
6～7学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	◇	△	○	○	○	◎	△	○	◇	○	◇	○			15.6部

	文化部																	平均設置部数		
	書道	美術	写真	茶道	華道	音楽	吹奏楽	演劇	JRC	放送	文学	家庭・家政系	自然科学等	囲碁・将棋	パソコン等	商業・簿記等				
1学級規模		◇		○			◇					△								3.5部
2～3学級規模				△			◇								△					4.3部
4～5学級規模	◎	○	◇	◇		◇	○	◎	○	◇						◇				9.5部
6～7学級規模	○	◎	◇	○	◇	△	◇	○	◇	◇	○		◇	△						11.8部

「◎」… 全校で設置、「○」… 3/4以上の学校で設置、「◇」… 1/2以上の学校で設置、「△」… 1/3以上の学校で設置

(平成26年度学校要覧を基に高等学校教育改革推進室において作成)

生徒数によって、開設できる科目数や部活動数に違いがあり、
生徒の希望に応じた活力ある教育活動のためには、
 一定以上の学校規模が求められる。



②充実した教育環境の整備 — 学校規模

学校規模の標準（1学年あたり）

① 基本となる学校

4学級（160人）以上

② 重点校

6学級（240人）以上

③ 拠点校

1つの専門学科で
4学級（160人）以上

※7

※7 4学級（160人）以上 … 1学級の定員を35人とする学級編制の弾力化を実施している学校にあつては140人以上

①～③を満たさない高校であっても、公共交通機関の状況から、他の高校へ通学することが困難である場合には、**配置に配慮**



②充実した教育環境の整備 — 定時制課程・通信制課程

定時制課程・通信制課程の方向性

- 働きながら学ぼうとする青少年
 - 全日制課程からの転・編入者
 - 中学校までの不登校経験者 等
- 様々な事情を抱えた生徒に広く学びの機会を提供する役割

定時制課程

スクールソーシャルワーカー
等の配置の充実

通信制課程

後期入学制度^{※8}の導入

等

※8 後期入学制度 … 単位制高校において、年度当初に加え、年度中途に選抜を行い、入学を許可する制度

学校配置：現状の配置の考え方を基本とする。



③学校配置に向けた新たな取組

計画的な学校配置

《地域の意見を伺う機会》

必要に応じて地域の意見を伺う機会を設定

→ 市町村を含む地域の関係者と連携・協力の下、検討

《開設準備委員会（仮称）》

(答申P19)

統合校の新たな名称、目指す生徒像や教育内容等を検討



③学校配置に向けた新たな取組

通学環境に配慮して配置する高校

入学者数が極めて少ない状況となった場合等には、高校教育として求められる質の確保に支障が生じる懸念



○募集停止等を検討することとなる**具体的な基準**をあらかじめ示し、関係市町村等の理解を得ながら対応

【募集停止や統合を検討することとなる具体的な基準の観点】

(観点1) 募集人員に対する入学者数の割合が一定の条件を下回る状態

(観点2) その状態が継続する期間

○募集停止等の場合、市町村等と連携・協力し、**通学支援について検討**

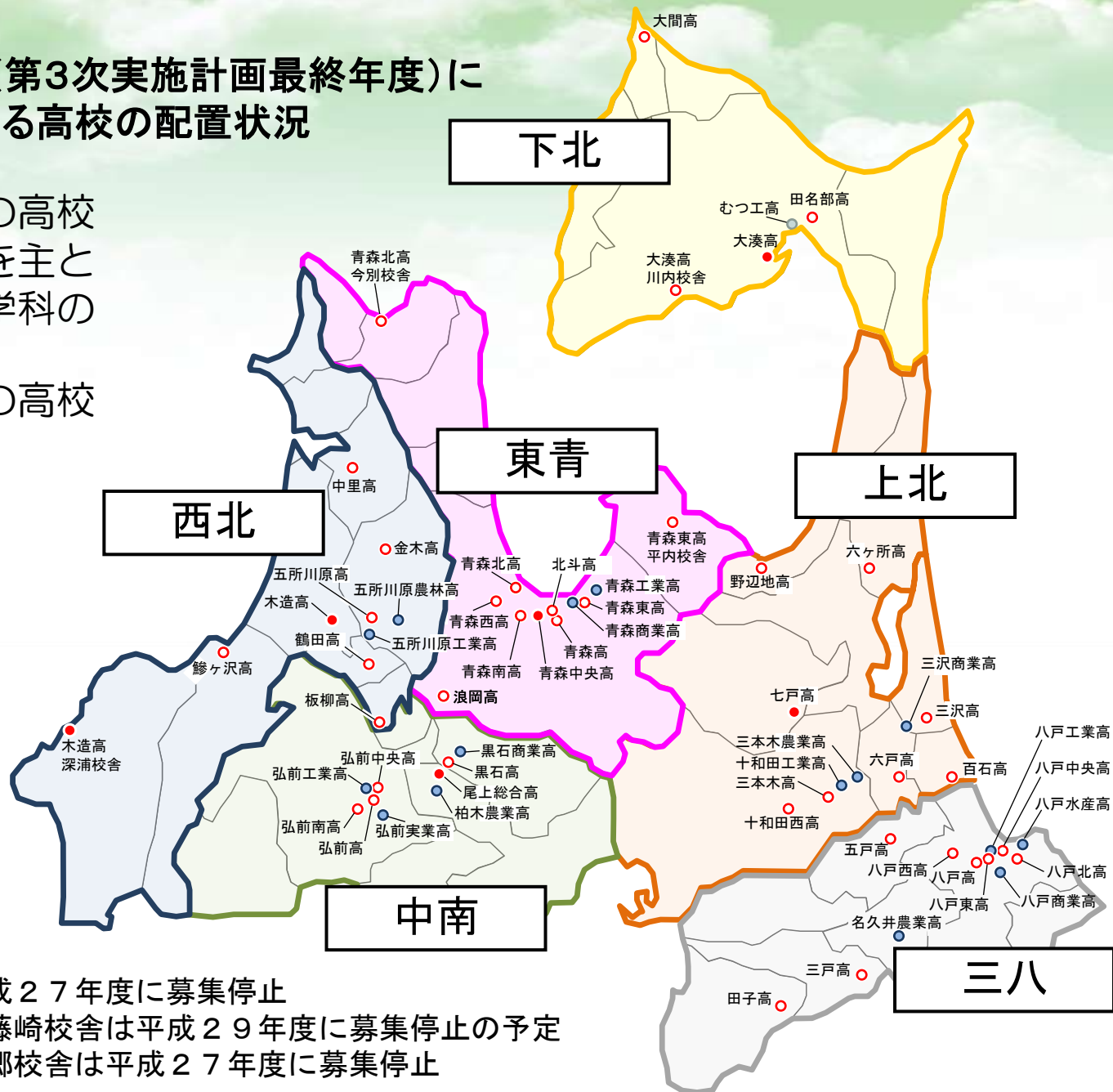
(例) スクールバスの運行、通学費補助 (奨学金での対応を含む) 等



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性

平成29年度(第3次実施計画最終年度)に
生徒を募集する高校の配置状況

- 普通科等の高校
- 職業教育を主とする専門学科の高校
- 総合学科の高校



※岩木高校は平成27年度に募集停止
弘前実業高校藤崎校舎は平成29年度に募集停止の予定
八戸北高校南郷校舎は平成27年度に募集停止



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性

<全日制課程>

()内の数字はスライド番号

	東青(35~)	西北(39~)	中南(43~)	上北(47~)	下北(51~)	三八(55~)
学級数増減 見込 ^{※9}	△13~ △15学級	△8~ △10学級	△9~ △11学級	△10~ △12学級	△3~ △5学級	△6~ △8学級
H39学級 数見込	39~41学級	17~19学級	33~35学級	31~33学級	12~14学級	36~38学級
重点校	設置	設置 ^{※10}	設置	設置	設置 ^{※10}	設置
拠点校	設置 (工業・商業)	設置 (農業)	設置 (工業)	設置 (農業)	—	設置 (工業)
その他	総合学科は、既設の4地区での配置を継続。複数学科を有する高校は、新たな設置について検討。					

※ 9 平成29年度と平成39年度の学級数の見込みを比較。

※ 10 西北地区及び下北地区の重点校は6学級未満の規模であっても柔軟に対応。併せて単位制の導入を検討。

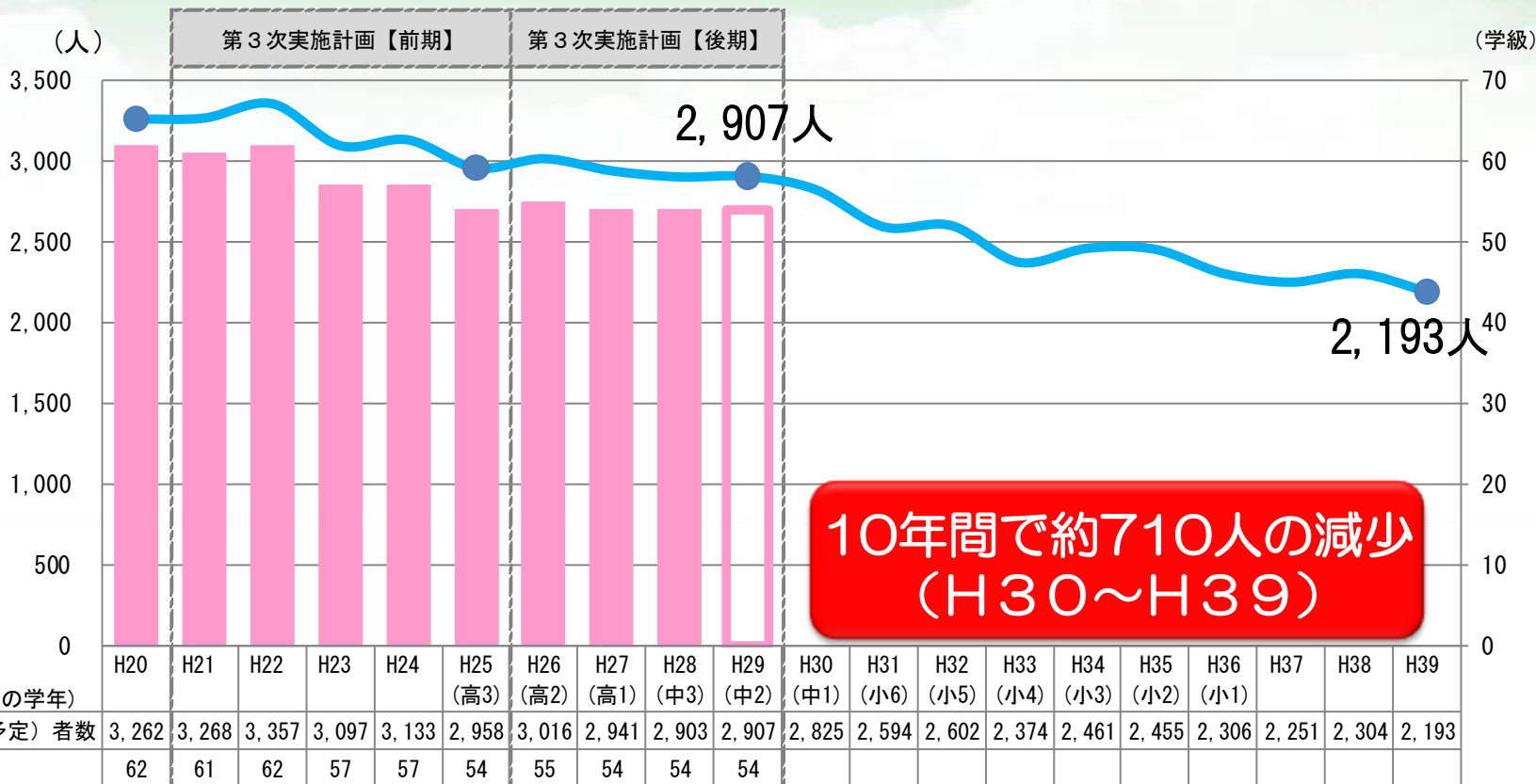


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【東青地区】② (答申P20)

中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

[中学校卒業(予定)者数と学級数の推移]

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。
平成28年度以降は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



**10年間で約710人の減少
(H30~H39)**

(平成27年4月1日現在の学年)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
中学校卒業(予定)者数	3,262	3,268	3,357	3,097	3,133	2,958	3,016	2,941	2,903	2,907	2,825	2,594	2,602	2,374	2,461	2,455	2,306	2,251	2,304	2,193
学級数	62	61	62	57	57	54	55	54	54	54										
	H25までの増減(対H20)					H29までの増減(対H25)					H39までの増減(対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△304人					△51人					△714人									
学級数	△8c1					0c1					△13CL~△15CL									



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【東青地区】③ (答申P20)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)の全日制課程の学校規模の状況

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流入出等の状況を勘案し、算出した。

[各学校の規模の推移]

学校名	平成20年度		平成25年度						増減	平成29年度(第3次実施計画より)		増減
	学級数	募集人数	学級数	募集人数	4cl	6cl	学級数	募集人数		4cl	6cl	
青森	7	280	7	280	40	40	40	40	40	40	40	0
青森西	6	240	6	240	40	40	40	40	40	40	40	0
青森東	7	280	7	280	40	40	40	40	40	40	40	0
青森東・平内	1	40	1	40	40							0
青森北	6	240	6	240	40	40	40	40	40	40	40	0
青森北・今別	1	40	1	40	40							0
青森南	6	240	6	240	40	40	40	40	40	40	40	0
青森中央	5	200	5	200	40	40	40	40	40	40	40	0
青森戸山	6	230			40	40	40	40	40	30		0
浪岡	3	105	2	70	35	35						△1
青森工業	8	280	7	245	35	35	35	35	35	35	35	△1
青森商業	6	240	6	240	40	40	40	40	40	40	40	0
地区計	62	2,415	54	2,115								0cl
増減			△8cl	△300人								0人

■ 普通科等 ■ 職業学科 ■ 総合学科

学級減のみで対応した場合の学校規模の見込		
	H29	H39
7学級	3校	0校
6学級	4校	0校
5学級	1校	4校
4学級	0校	4校
3学級	0校	0校
2学級	1校	1校
1学級	2校	2校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【東青地区】④ (答申P20)

学校配置等の方向性

全 日 制 課 程	普通科等	重点校	設置
		普通科系の専門学科	外国語科・スポーツ科学科は、設置目的や進路志望の達成状況などを改めて見極め、その在り方を検討
	職業教育を主とする専門学科	拠点校	設置(工業科、商業科)
		その他の学科	(なし)
	総合学科	引き続き配置 (系列については、生徒数減や生徒のニーズを踏まえ、見直しを検討)	
	複数学科を有する高校	要検討(学科の選択肢・学校規模の確保)	
	定時制・通信制課程		現状の配置の考え方を基本
	工業科	志願・入学状況を踏まえ検討	
学校配置に当たっての留意点			公共交通機関等の通学環境に配慮



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【西北地区】① (答申P21)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)に生徒を募集する高校の配置状況

- 普通科等の高校
- 職業教育を主とする専門学科の高校
- 総合学科の高校



全日制課程(10校)	
普通科等	普通科5校 普通科・理数科1校
職業教育を主とする専門学科	農業科1校 工業科1校
総合学科	2校 (校舎制導入校1校を含む)
定時制課程(1校)	
普通科	1校

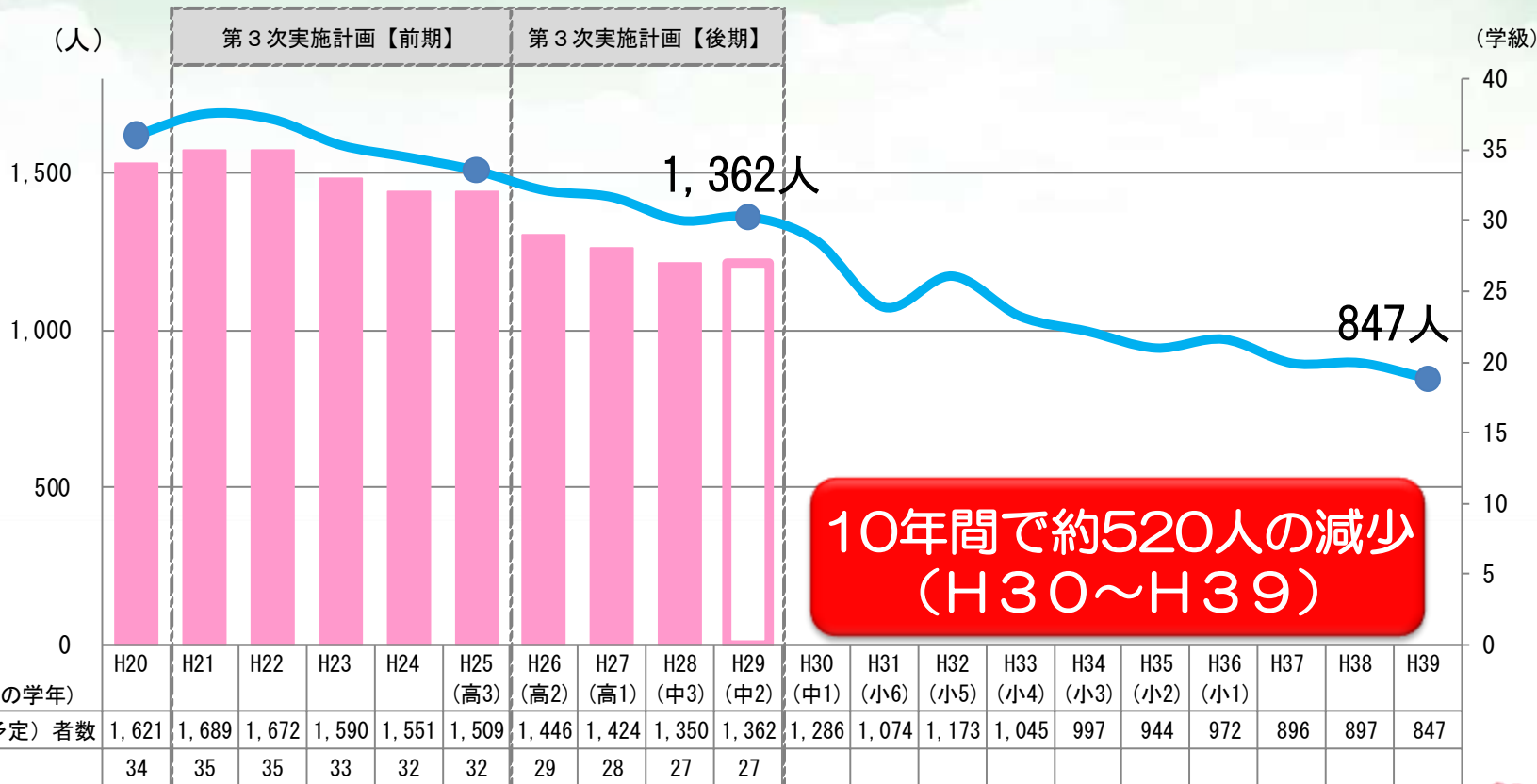


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【西北地区】② (答申P21)

中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

[中学校卒業(予定)者数と学級数の推移]

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。
平成28年度以降は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約520人の減少
(H30~H39)

(平成27年4月1日現在の学年)

	H20	H25までの増減(対H20)					H29までの増減(対H25)				H39までの増減(対H29)									
中学校卒業(予定)者数		△112人					△147人				△515人									
学級数		△2c1					△5c1				△8CL~△10CL									

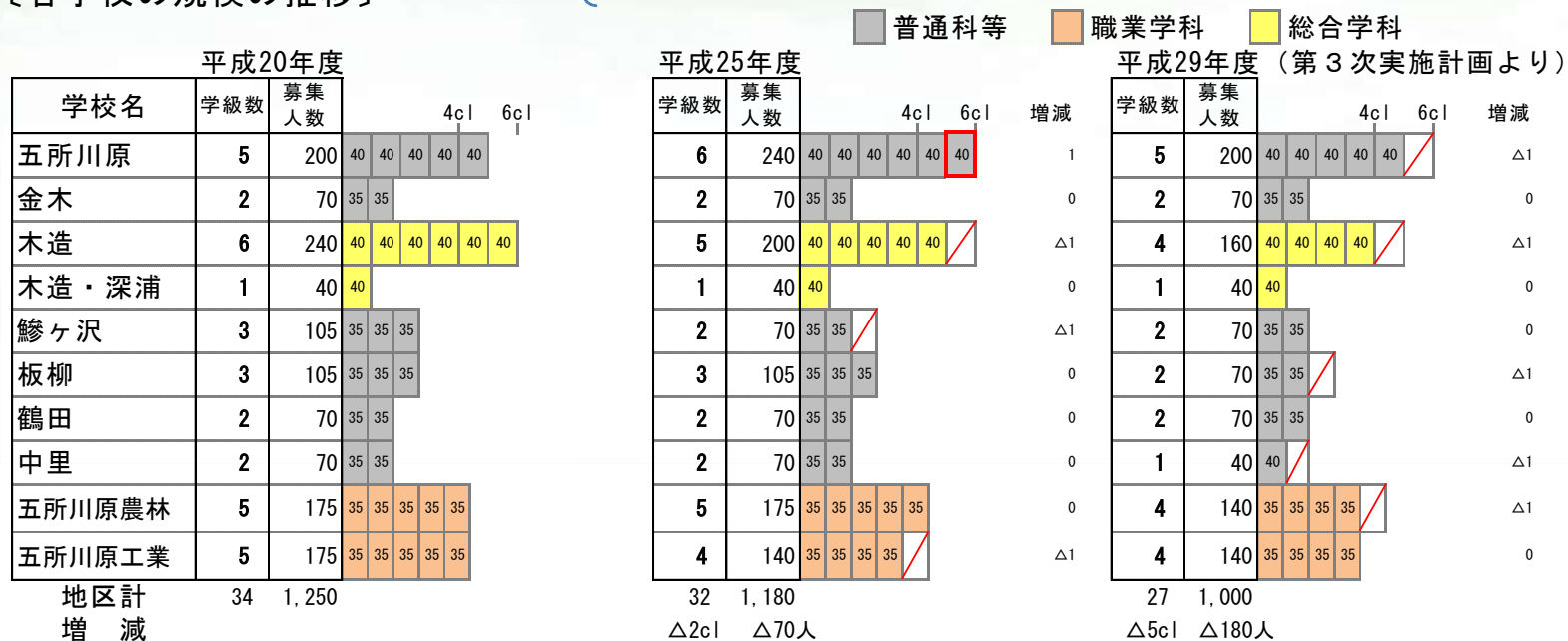


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【西北地区】③ (答申P21)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)の全日制課程の学校規模の状況

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流入等入等の状況を勘案し、算出した。

[各学校の規模の推移]



学級減のみで対応した場合の学校規模の見込		
	H29	H39
5学級	1校	0校
4学級	3校	0校
3学級	0校	0校
2学級	4校	8校
1学級	2校	2校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【西北地区】④ (答申P21)

学校配置等の方向性

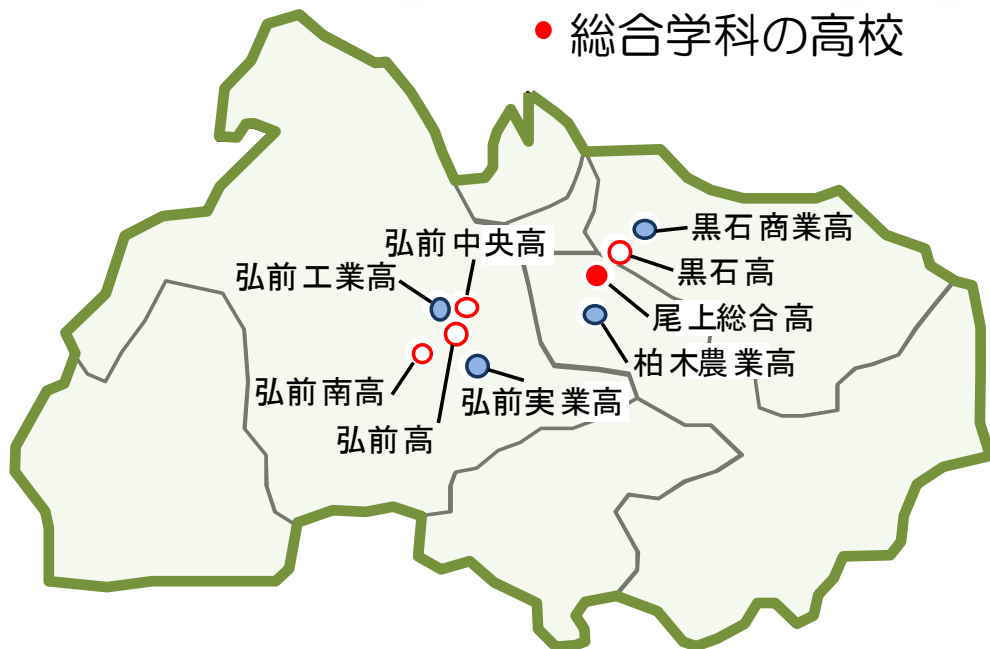
全 日 制 課 程	普通科等	重点校	設置 (学校規模は柔軟に対応、単位制を検討)
		普通科系の専門学科	理数科は、学習内容を見極め、その在り方を検討
	職業教育を主とする専門学科	拠点校	設置(農業科)
		その他の学科	工業科は、中学生の進路の選択肢として維持するための方策を検討
	総合学科	引き続き配置 (系列については、生徒数減や生徒のニーズを踏まえ、見直しを検討)	
	複数学科を有する高校	要検討(学科の選択肢・学校規模の確保)	
定時制・通信制課程			現状の配置の考え方を基本
学校配置に当たっての留意点			五所川原市、つがる市に加え、北津軽郡及び西津軽郡に配置



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【中南地区】① (答申P22)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)に生徒を募集する高校の配置状況

- 普通科等の高校
- 職業教育を主とする専門学科の高校
- 総合学科の高校



全日制課程(8校)	
普通科等	普通科3校 普通科・看護科1校
職業教育を主とする専門学科	農業科1校 工業科1校 商業科1校 農業科・商業科・家庭科・スポーツ科学科1校
定時制課程(2校)	
総合学科	3部制 ^{※11} 1校
職業教育を主とする専門学科	工業科1校
通信制課程(1校)	
普通科	1校

※岩木高校は平成27年度に募集停止
弘前実業高校藤崎校舎は平成29年度に募集停止の予定

※11 3部制 … 午前、午後、夜間等の時間帯で授業を行う3つの部で構成される定時制単位制高校

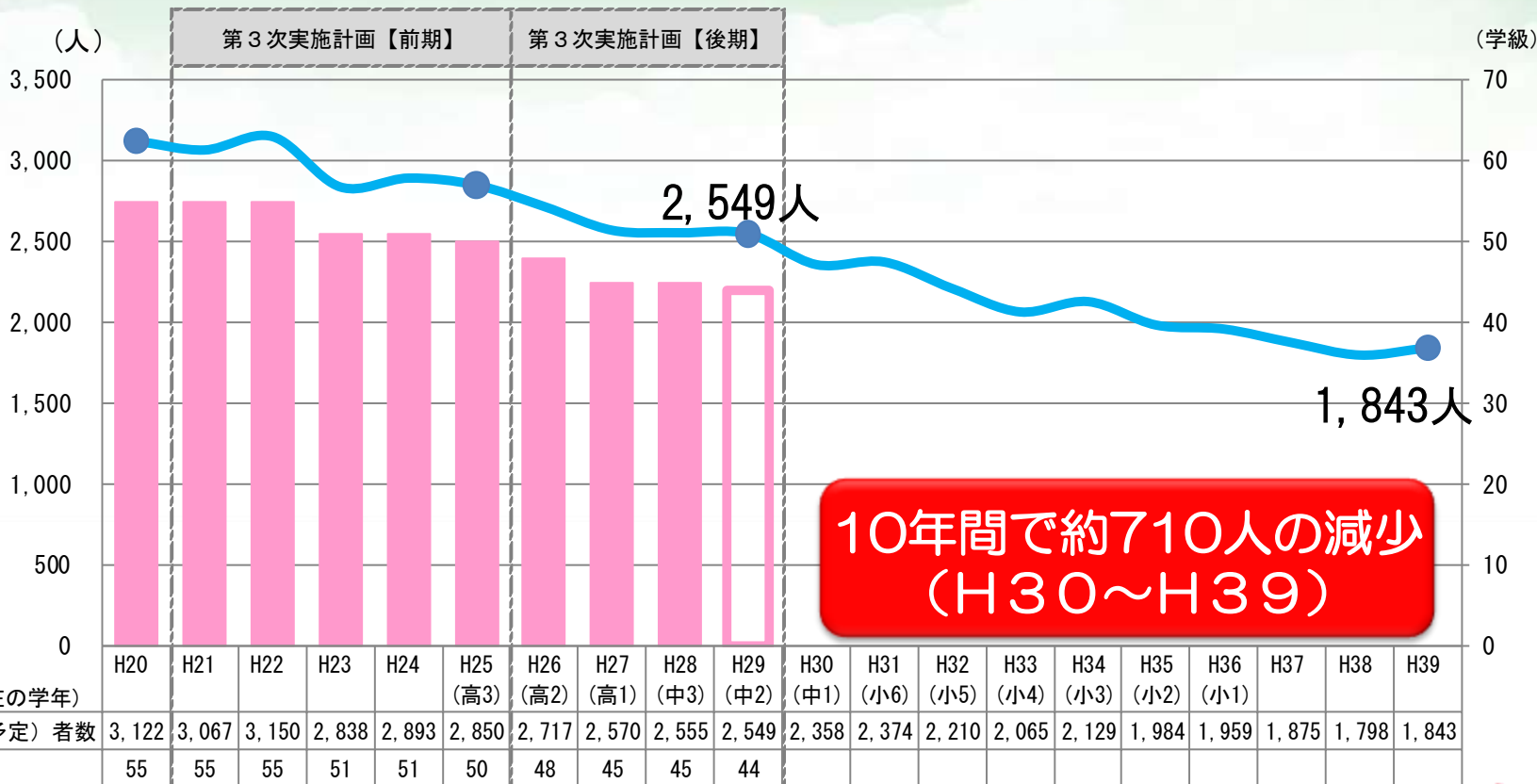


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【中南地区】② (答申P22)

中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

[中学校卒業(予定)者数と学級数の推移]

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。
平成28年度以降は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約710人の減少
(H30~H39)

(平成27年4月1日現在の学年)

	H25までの増減(対H20)	H29までの増減(対H25)	H39までの増減(対H29)
中学校卒業(予定)者数	△272人	△301人	△706人
学級数	△5c l	△6c l	△9c l ~ △11c l



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【中南地区】③ (答申P22)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)の全日制課程の学校規模の状況

[各学校の規模の推移]

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流入入等の状況を勘案し、算出した。



学級減のみで対応した場合の学校規模の見込		
	H29	H39
7学級	2校	0校
6学級	3校	0校
5学級	0校	2校
4学級	3校	6校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【中南地区】④ (答申P22)

学校配置等の方向性

全日制課程	普通科等	重点校	設置
		普通科系の専門学科	スポーツ科学科は、中学生のニーズと合致しており、引き続き設置
	職業教育を主とする専門学科	拠点校	設置(工業科)
		その他の学科	地区の複数校に設置している農業科、商業科は、集約化を検討 看護科、家庭科は、中学生の進路の選択肢として維持するための方策を検討
	総合学科	総合学科へ改編するより、既存の学科を充実	
	複数学科を有する高校	要検討(学科の選択肢・学校規模の確保)	
定時制・通信制課程			現状の配置の考え方を基本
夜間定時制 (総合学科・工業科)			志願・入学状況を踏まえ、地区全体の視点から検討
学校配置に当たっての留意点			弘前市、黒石市、平川市の三市に配置



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【上北地区】① (答申P23)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)に生徒を募集する高校の配置状況

- 普通科等の高校
- 職業教育を主とする専門学科の高校
- 総合学科の高校



全日制課程(11校)	
普通科等	普通科4校 普通科・英語科1校 普通科・商業科1校 普通科・家庭科1校
職業教育を主とする専門学科	農業科1校 工業科1校 商業科1校
総合学科	1校
定時制課程(1校)	
普通科	1校

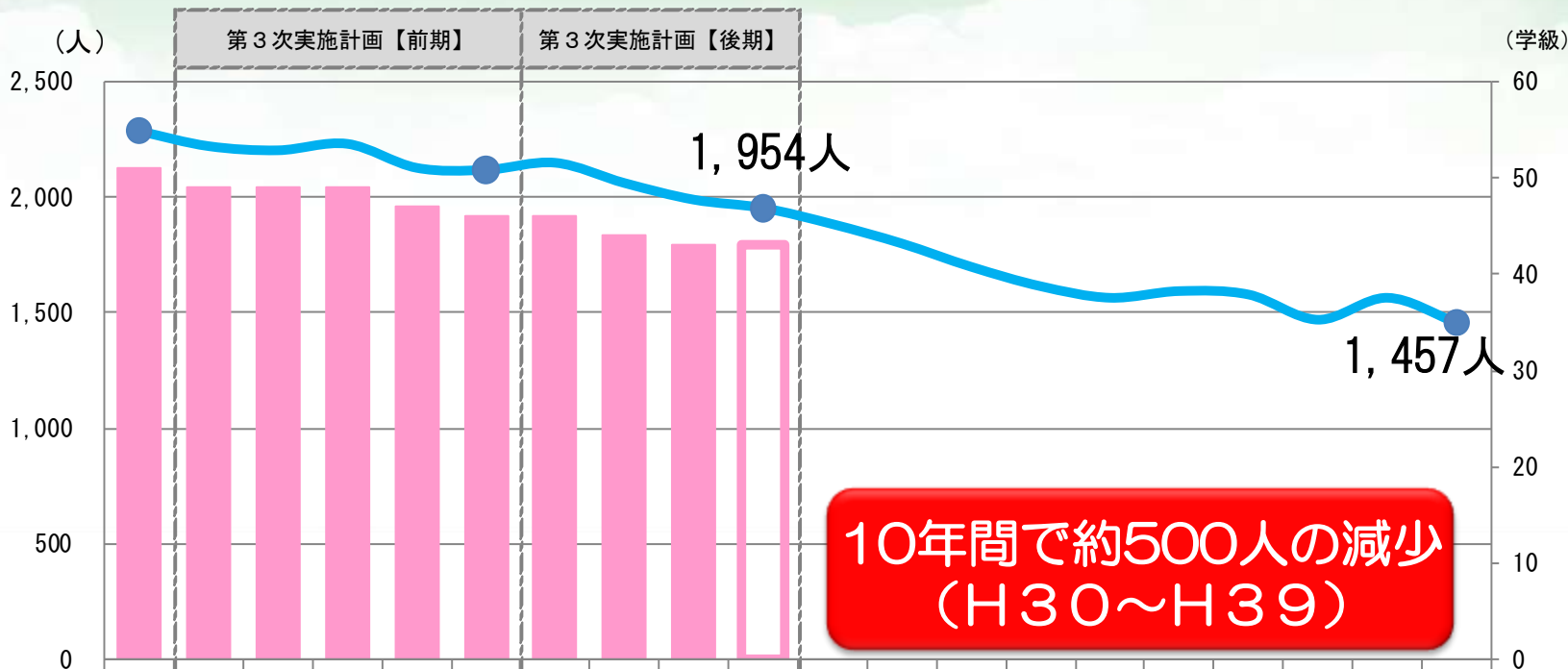


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【上北地区】② (答申P23)

中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

[中学校卒業(予定)者数と学級数の推移]

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。
平成28年度以降は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



(平成27年4月1日現在の学年)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25 (高3)	H26 (高2)	H27 (高1)	H28 (中3)	H29 (中2)	H30 (中1)	H31 (小6)	H32 (小5)	H33 (小4)	H34 (小3)	H35 (小2)	H36 (小1)	H37	H38	H39
中学校卒業(予定)者数	2,287	2,222	2,204	2,232	2,128	2,119	2,150	2,062	1,990	1,954	1,884	1,800	1,699	1,615	1,565	1,594	1,579	1,470	1,565	1,457
学級数	51	49	49	49	47	46	46	44	43	43										
	H25までの増減(対H20)					H29までの増減(対H25)					H39までの増減(対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△168人					△165人					△497人									
学級数	△5c1					△3c1					△10c1~△12c1									

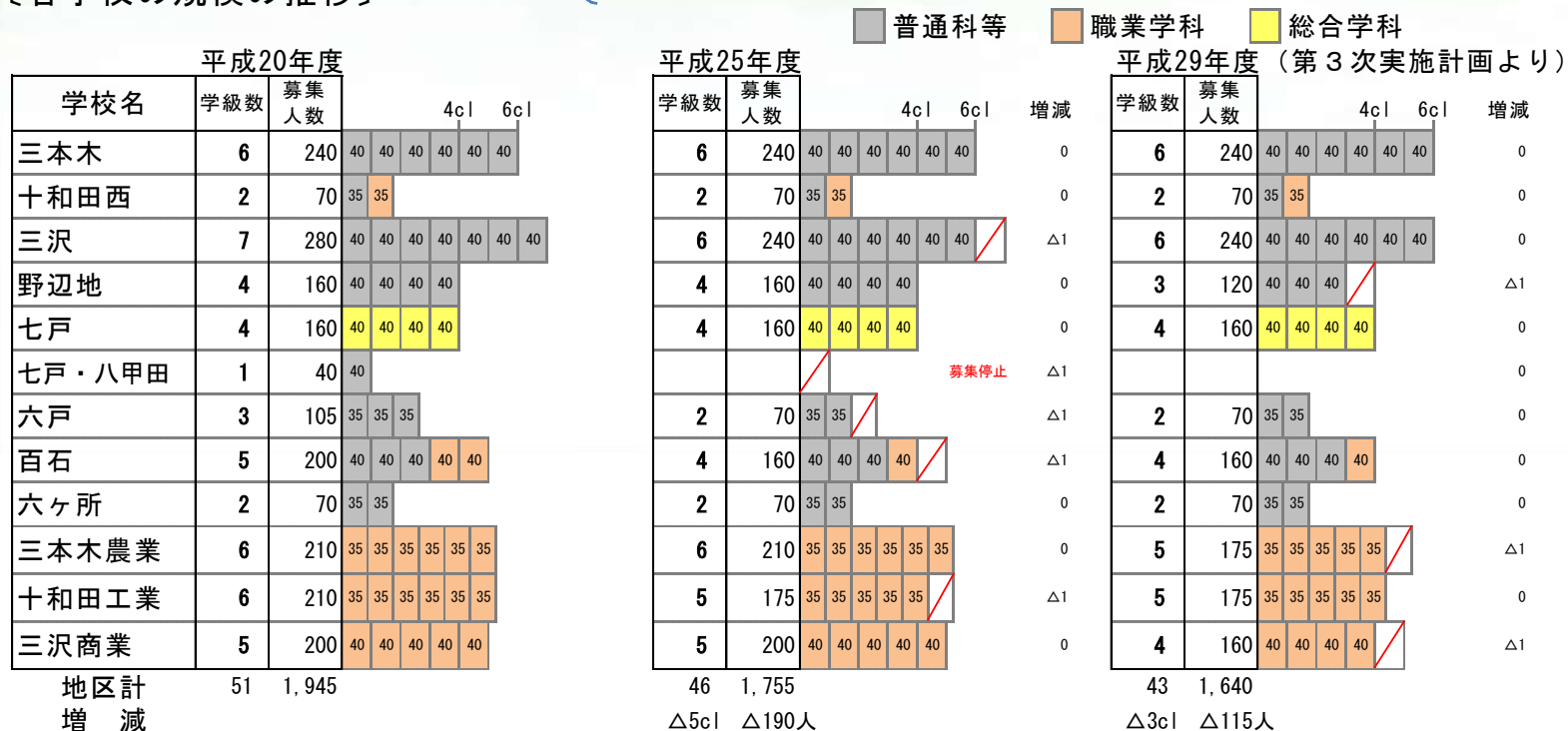


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【上北地区】③ (答申P23)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)の全日制課程の学校規模の状況

[各学校の規模の推移]

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出した。



学級減のみで対応した場合の学校規模の見込		
	H29	H39
6学級	2校	0校
5学級	2校	0校
4学級	3校	2校
3学級	1校	6校
2学級	3校	3校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【上北地区】④ (答申P23)

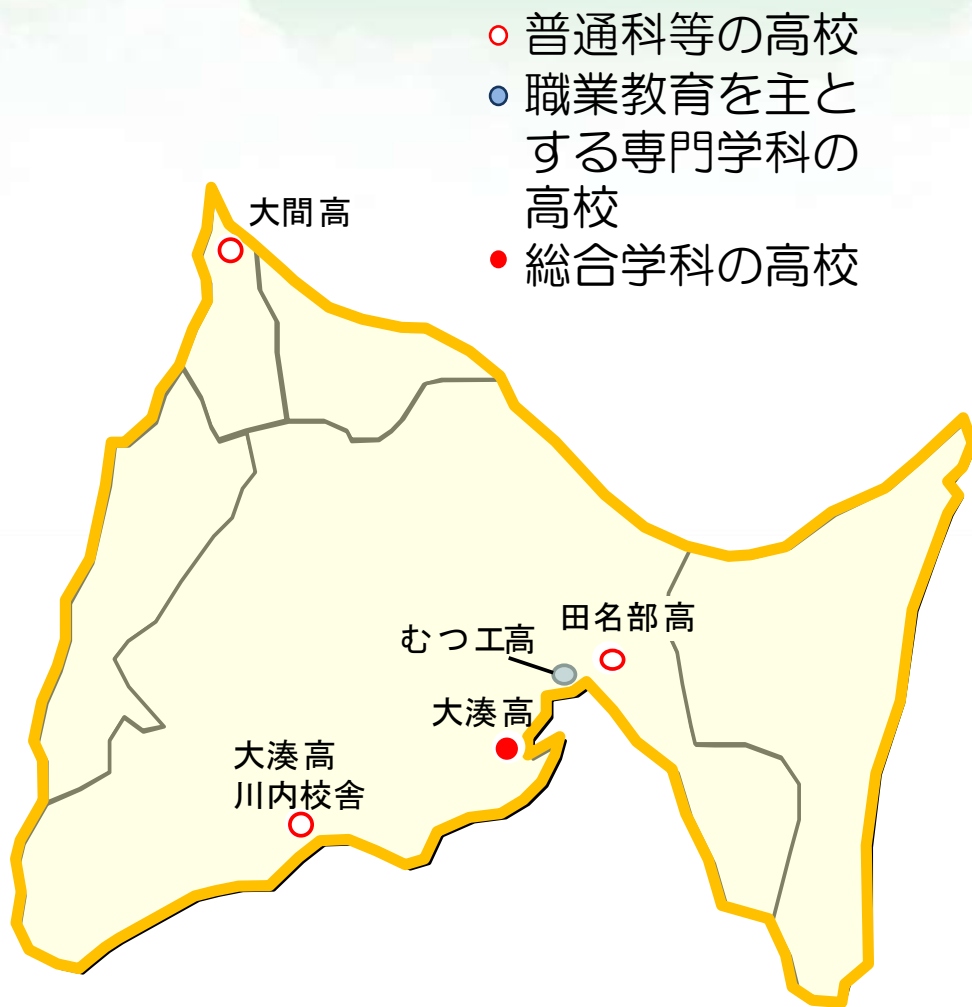
学校配置等の方向性

全日制課程	普通科等	重点校	設置
		普通科系の専門学科	英語科は、教育課程の工夫等による対応を検討
	職業教育を主とする専門学科	拠点校	設置(農業科)
		その他の学科	工業科、商業科、家庭科は、中学生の進路の選択肢として維持するための方策を検討
	総合学科	引き続き配置 (系列については、生徒数減や生徒のニーズを踏まえ、見直しを検討)	
	複数学科を有する高校	要検討(学科の選択肢・学校規模の確保)	
定時制・通信制課程			現状の配置の考え方を基本
学校配置に当たっての留意点			十和田市、三沢市に加え、上北郡に配置



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【下北地区】① (答申P24)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)に生徒を募集する高校の配置状況



全日制課程(5校)	
普通科等	普通科2校 (校舎制導入校1校を含む) 普通科・英語科1校
職業教育を主とする専門学科	工業科1校
総合学科	1校
定時制課程(1校)	
普通科	1校

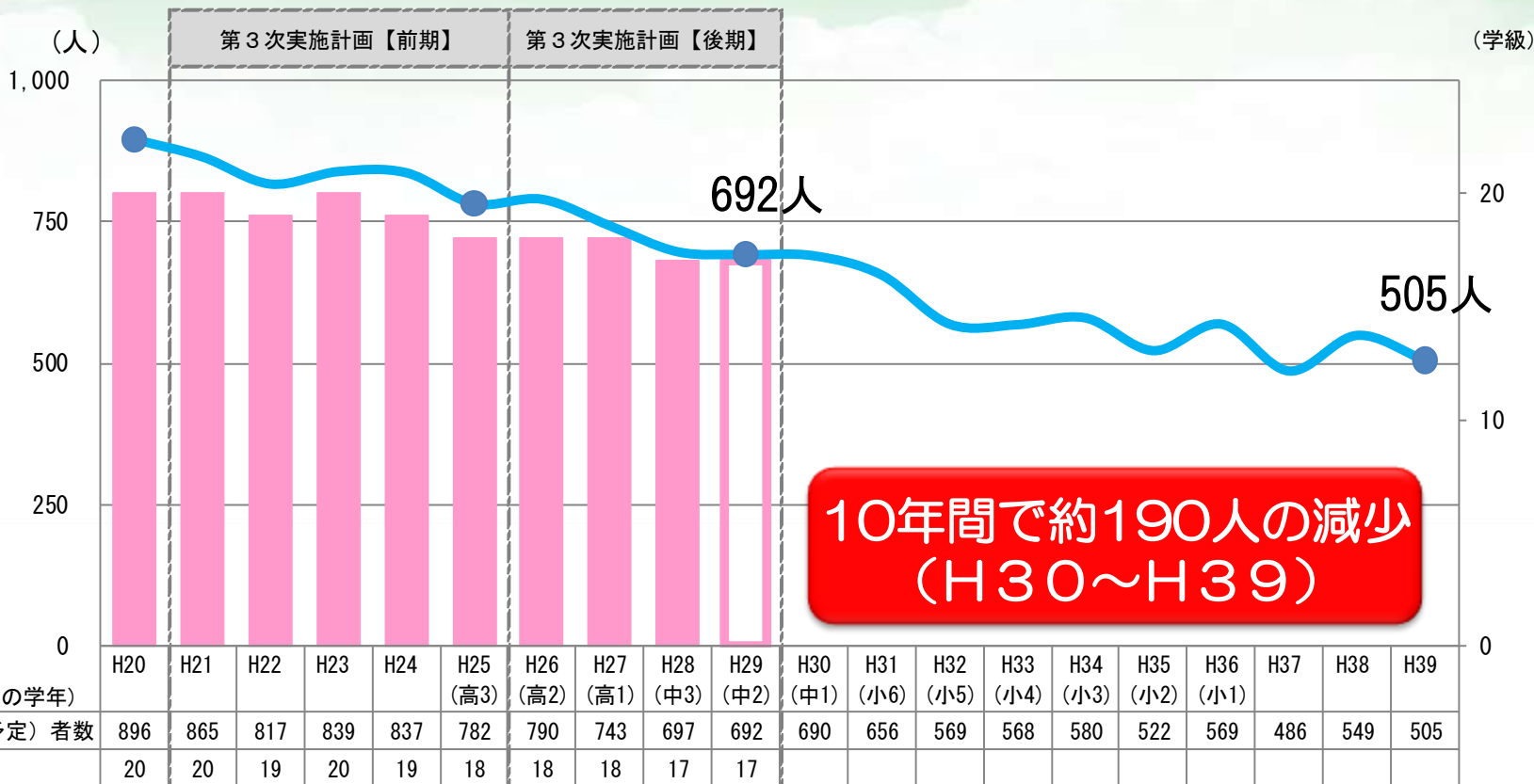


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【下北地区】② (答申P24)

中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

[中学校卒業(予定)者数と学級数の推移]

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。
平成28年度以降は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約190人の減少
(H30~H39)

(平成27年4月1日現在の学年)

	H25までの増減(対H20)					H29までの増減(対H25)					H39までの増減(対H29)								
中学校卒業(予定)者数	△114人					△90人					△187人								
学級数	△2c1					△1c1					△3CL~△5CL								

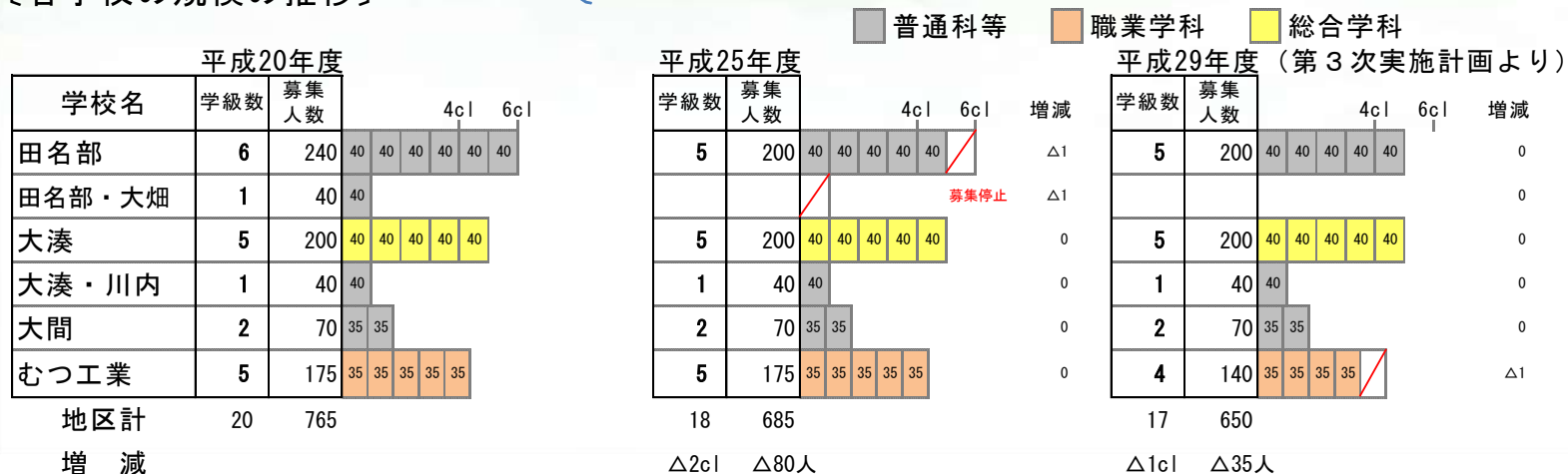


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【下北地区】③ (答申P24)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)の全日制課程の学校規模の状況

[各学校の規模の推移]

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流入等入等の状況を勘案し、算出した。



学級減のみで対応した場合の学校規模の見込		
	H29	H39
5学級	2校	0校
4学級	1校	1校
3学級	0校	2校
2学級	1校	1校
1学級	1校	1校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【下北地区】④ (答申P24)

学校配置等の方向性

全日制課程	普通科等	重点校	設置 (学校規模は柔軟に対応、単位制を検討)
		普通科系の専門学科	英語科は、学校全体としてグローバル教育に対応するなど、その在り方を検討
	職業教育を主とする専門学科	拠点校	(地区の状況から、重点校と拠点校の双方の設置は困難)
		その他の学科	工業科は、中学生の進路の選択肢として維持するための方策を検討
	総合学科	引き続き配置 (系列については、生徒数減や生徒のニーズを踏まえ、見直しを検討)	
	複数学科を有する高校	要検討(学科の選択肢・学校規模の確保)	
定時制・通信制課程			現状の配置の考え方を基本
学校配置に当たっての留意点			むつ市に加え、下北郡に配置



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【三八地区】① (答申P25)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)に生徒を募集する高校の配置状況

- 普通科等の高校
- 職業教育を主とする専門学科の高校
- 総合学科の高校



※八戸北高校南郷校舎は平成27年度に募集停止

全日制課程(11校)	
普通科等	普通科5校 普通科・表現科1校 普通科・スポーツ科学科1校
職業教育を主とする専門学科	農業科1校 工業科1校 商業科1校 水産科1校
定時制課程(2校)	
普通科	3部制 ^{※11} 1校
職業教育を主とする専門学科	工業科1校
通信制課程(1校)	
普通科	1校

※11 3部制 … 午前、午後、夜間等の時間帯で授業を行う3つの部で構成される定時制単位制高校

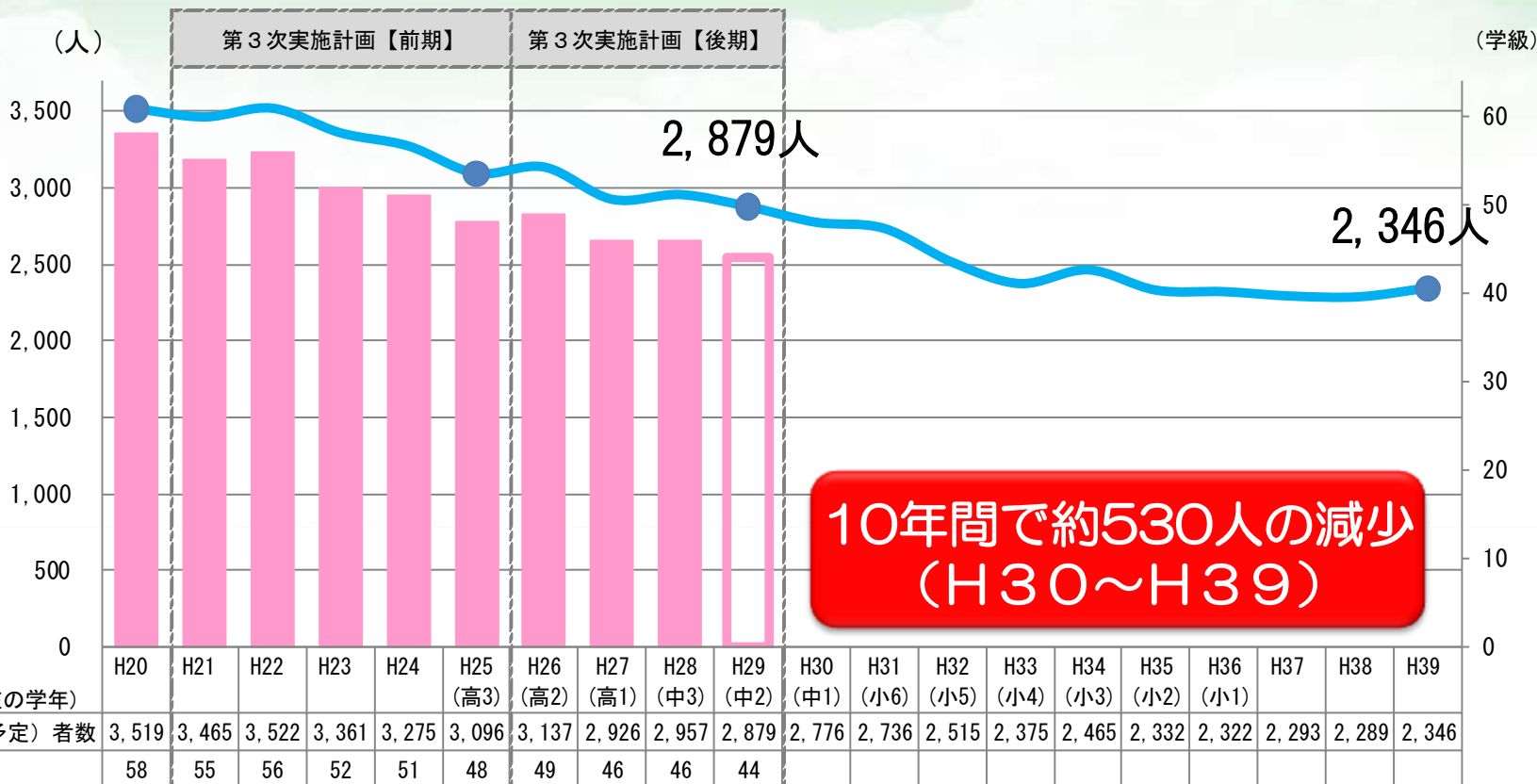


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【三八地区】② (答申P25)

中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

[中学校卒業(予定)者数と学級数の推移]

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。
平成28年度以降は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。



10年間で約530人の減少
(H30~H39)

(平成27年4月1日現在の学年)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25 (高3)	H26 (高2)	H27 (高1)	H28 (中3)	H29 (中2)	H30 (中1)	H31 (小6)	H32 (小5)	H33 (小4)	H34 (小3)	H35 (小2)	H36 (小1)	H37	H38	H39
中学校卒業(予定)者数	3,519	3,465	3,522	3,361	3,275	3,096	3,137	2,926	2,957	2,879	2,776	2,736	2,515	2,375	2,465	2,332	2,322	2,293	2,289	2,346
学級数	58	55	56	52	51	48	49	46	46	44										
	H25までの増減(対H20)					H29までの増減(対H25)					H39までの増減(対H29)									
中学校卒業(予定)者数	△423人					△217人					△533人									
学級数	△10c1					△4c1					△6CL~△8CL									

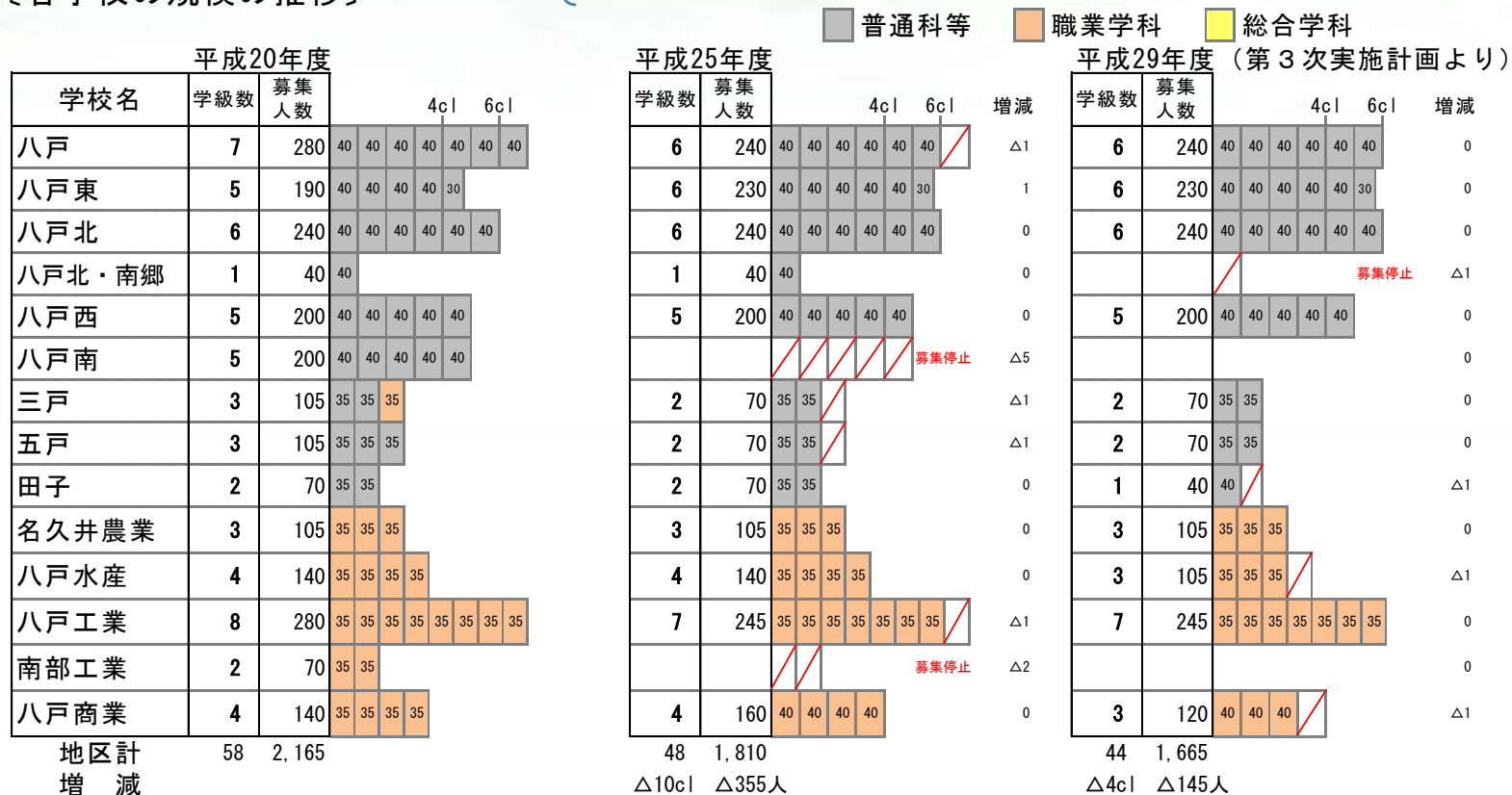


(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【三八地区】③ (答申P25)

平成29年度(第3次実施計画最終年度)の全日制課程の学校規模の状況

[各学校の規模の推移]

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出した。



学級減のみで対応した場合の学校規模の見込		
	H29	H39
7学級	1校	0校
6学級	3校	0校
5学級	1校	3校
4学級	0校	2校
3学級	3校	3校
2学級	2校	2校
1学級	1校	1校

※学級数の多い学校から学級減を行い対応した場合の見込



(4) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性【三八地区】④ (答申P25)

学校配置等の方向性

全 日 制 課 程	普通科等	重点校	設置
		普通科系の専門学科	スポーツ科学科・表現科は、設置目的や進路志望の達成状況などを改めて見極め、その在り方を検討
	職業教育を主とする専門学科	拠点校	設置(工業科)
		その他の学科	農業科、商業科、水産科は、中学生の進路の選択肢として維持するための方策を検討
	総合学科	総合学科へ改編するより、既存の学科を充実	
	複数学科を有する高校	要検討(学科の選択肢・学校規模の確保)	
定時制・通信制課程			現状の配置の考え方を基本
	工業科	志願・入学状況を踏まえ検討	
学校配置に当たっての留意点			八戸市に加え、三戸郡に配置



学校・家庭・地域等との連携の推進

- 高校間の連携
- 家庭・地域等との連携 等

教育活動の充実に向けた取組

- 各学校の魅力化と情報発信
- 教員の資質向上
- 教職員定数等の見直しについて国への継続的な働きかけ 等

本県高校教育の充実に向けた継続的な検証

- 平成30年度以降の次期計画を策定・推進する際には、それまでの成果や有効性を継続的に検証



答申で重視されている理念

- 未来を担う子どもたちを中心に据えた将来構想の検討
- 単なる生徒数減少への対応策ではなく、県全体が一丸となって高校教育に向き合うという視点で検討

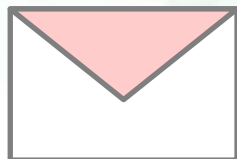


～青森県の未来を担う子どもたちが
夢や志の実現に向けて成長できる
高等学校教育のために～



答申に関する意見を募集中です！

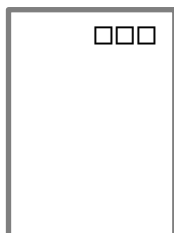
＜2月24日（水）まで＞



これから高校に入学するお子さんたちに直接かかわる
ことです。

ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください！

E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp



〒030-8540 青森市新町2-3-1

青森県教育庁高等学校教育改革推進室

FAX 017-734-8267

青森県 高校教育改革

検索



http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/highschool_portal.html



本日は、地区懇談会に御出席いただき、
ありがとうございました。

